

令和 8 年度宗像市地域防災計画の修正について(案)

1 修正の概要

福岡県地域防災計画の改定および令和8年5月29日より運用が開始された防災気象情報の名称の変更、福岡県が実施した地震アセスメント調査の結果を踏まえ、宗像市地域防災計画の修正を行うもの。

2 主な修正内容

【基本編・風水害対策編】

○令和7年8月の豪雨に関する記述を追記

(1) 第 1 章 総則 第 2 節 風水害防災面から見た宗像市の特性・災害の想定

第 1 市域の概況 1 社会的条件 (3) 気象

本市の気候は、日本海型気候を示し、平均気温は 16℃前後で温暖である。
また、総降水量は過去 10 箇年では年平均 1,700mm 程度で、雪は年平均で 2 日と少ない。
一方、観測史上 1~5 位の値をみると日降水量が令和 7 年 8 月 10 日に 308.0mm、日最大 10 分間降水量が令和 5 年 7 月 30 日及び令和 7 年 8 月 10 日に 25.5mm を記録する等、近年では 7 月下旬から 8 月上旬にかけて、記録的な大雨に見舞われる傾向にある。

(2) 第 1 章 総則 第 2 節 風水害防災面から見た宗像市の特性・災害の想定

第 2 市の気象災害の特色 1 災害履歴

■宗像市における主な災害履歴

令和 時代	2024	令和 6 年	7/1~2	豪雨	住家被害(3 棟床下浸水)、道路冠水あり。
	2025	令和 7 年	8/9~12	豪雨	線状降水帯発生による記録的な豪雨により甚大な被害発生。人的被害(軽傷 1 件)のほか、住家被害、道路冠水及びがけ崩れ等が市内各地で多数発生。

○防災気象情報の名称の変更等による修正

(1) 第 3 章 災害応急対策計画 第 1 節 活動体制の確立 第 2 警戒活動

1 警戒活動

■警戒活動の基準

- 宗像市に、大雨、土砂災害、暴風(陸上)、高潮等の警報が発表されたとき
- 福岡県内において気象防災速報(線状降水帯発生)が発表されたとき
- 台風の進路にあるが時間的余裕がある場合等で、危機管理担当部長が必要と認めるとき

(2) 第3章 災害応急対策計画 第2節 災害応急対策活動 第1 防災気象情報等の伝達

1 防災気象情報等の種類・基準と伝達系統 (1)気象情報

■注意報・警報等の定義及び種類

定義		種類
特別警報	宗像市において予想される現象が特に異常であるため重大な災害の起こるおそれ著しく大きい場合に、気象業務法に基づき、福岡管区気象台が一般及び関係機関に対して最大限の警戒を呼び掛けるために発表する。	レベル5氾濫特別警報 レベル5大雨特別警報、 レベル5土砂災害特別警報 レベル5高潮特別警報 暴風特別警報、暴風雪特別警報、 大雪特別警報、波浪特別警報
危険警報	宗像市において重大な災害が起こるおそれ大きい危険な状況である場合に、気象業務法に基づき、福岡管区気象台が一般及び関係機関に対して警戒を呼び掛けるために発表する。	レベル4氾濫危険警報 レベル4大雨危険警報、 レベル4土砂災害危険警報 レベル4高潮危険警報
警報	宗像市において重大な災害が起こるおそれがある場合に、気象業務法に基づき、福岡管区気象台が一般及び関係機関に対して警戒を喚起するために発表する。	レベル3氾濫警報 レベル3大雨警報、 レベル3土砂災害警報 レベル3高潮警報 暴風警報、暴風雪警報、 大雪警報、波浪警報
注意報	宗像市において災害が起こるおそれがある場合に、気象業務法に基づき、福岡管区気象台が一般及び関係機関に対して注意を喚起するために発表する。	レベル2氾濫注意報 レベル2大雨注意報 レベル2土砂災害注意報 レベル2高潮注意報 強風注意報、風雪注意報、波浪注意報、大雪注意報、雷注意報、乾燥注意報、濃霧注意報、霜注意報、なだれ注意報、低温注意報、着氷(雪)注意報、融雪注意報
気象情報	気象の予報等について、特別警報・警報・注意報に先立って注意を喚起する場合(早期注意情報)や、特別警報・警報・注意報が発表された後の経過や予想、防災上の注意を解説する場合等に発表する。福岡管区気象台は、九州北部地方及び山口県を対象とする「九州北部地方(山口県を含む)気象情報」並びに福岡県を対象とする「福岡県気象情報」及び「福岡県記録的短時間大雨情報」を発表する。「雨を要因とする特別警報」を発表したときには、その後速やかに、その内容を補完するため「気象防災速報(記録的短時間大雨)」という表題の気象情報を発表する。また、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けているときには、「線状降水帯」というキーワードを使って解説する「気象防災速報(線状降水帯発生)」という表題の気象情報を発表する。	

【地震・津波対策編】

「地震に関する防災アセスメント調査報告書」(令和7年9月)による修正

(1) 第1章 総則 第3節 災害の想定 第1 地震

■宗像市の地震被害想定結果

想定地震		西山断層帯連動	基盤地震動一定
震度		7	6強
液状化現象		極めて高い～かなり低い	極めて高い～かなり低い
建築物被害 (液状化によるもの)	全壊棟数	約 20	約 20
	半壊棟数	約 100	約 100
	全半壊棟数合計	約 120	約 120
建築物被害 (揺れによるもの)	全壊棟数	約 1,300	約 1,300
	半壊棟数	約 4,100	約 4,800
	全半壊棟数合計	約 5,400	約 6,100
建築物被害 (急傾斜地崩壊によるもの)	全壊棟数	約 40	約 40
	半壊棟数	約 80	約 80
	全半壊棟数合計	約 120	約 120
上水道管被害 (冬18時・強風)	断水人口 (直後)	約 6,500	約 4,300
	断水人口 (1日後)	約 4,700	約 3,300
	断水人口 (1週間後)	約 1,300	約 1,000
	断水人口 (1か月後)	約 200	約 100
下水道管被害 (冬18時・強風)	被害延長(km)	約 30km	約 20km
	支障人口 (直後)	約 4,200人	約 4,000人
	支障人口 (1日後)	約 3,500人	約 2,700人
	支障人口 (1週間後)	約 1,900人	約 800人
	支障人口 (1か月後)	約 300人	約 90人
都市ガス管被害	被害箇所	0	0
Lガス管被害	被害件数	約 900件	約 800件
電力被害(電柱折損数)	被害本数	約 60本	約 60本
電力被害(停電件数)	停電軒数	約 500軒	約 300軒

電話柱被害	被害本数	約 50 本	約 50 本
道路被害	被害箇所	約 60 箇所	約 60 箇所
鉄道被害* (鹿児島本線)	被害箇所数	約 20 箇所	約 30 箇所
漁港・港湾被害 (大島漁港)	被害箇所数	約 10 箇所	約 10 箇所
(鐘崎漁港)	被害箇所数	約 10 箇所	0 箇所
(地島漁港)	被害箇所数	0 箇所	0 箇所
(神湊漁港)	被害箇所数	0 箇所	0 箇所
人的被害	死傷者数	約 70 人	約 70 人
	負傷者数	約 800 人	約 900 人
	重症者数	約 100 人	約 100 人
	要救助者数	約 300 人	約 300 人
	発災当日避難者数	約 7,900 人	約 8,900 人
	1 週間後避難者数	約 8,200 人	約 9,200 人
	1 か月後避難者数	約 8,100 人	約 9,100 人
	帰宅困難者数	約 10,000 人	約 10,000 人
要救援者	食料・飲料供給 対象世帯	約 3,300 世帯	約 2,100 世帯

【その他】

○時点修正及び記載の適正化

- ・本市の気象(気温・降水量等)情報の推移について、履歴に直近年度分を反映
- ・本市の人口動向について、最新年度分を反映

○福岡県地域防災計画の改定に伴う字句の修正、表現の適正化など